



特定医療法人

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

第19号

発行 / 2007年11月15日
特定医療法人社団 鵬友会
発行責任者 /
事務局長 池島 守

ほうゆう病院を老朽化から守りたい ～ 事務部長の仕事～

ほうゆう病院 事務部長 広岡 信子



ほうゆう病院は開設7年目を迎え、7月より、新しく小阪院長が着任されました。就任挨拶の中で、日本一の認知症専門病院にしましょうと話された言葉を耳にして、日本一になるには、これからやらなくてはいけない事が山積みの現状に職員一同、身の引き締まる思いをしたことと思います。

今、認知症に苦しんでいる方は、170万人いられ、今後も増え続け10年後には250万人に達すると予測されています。これからも地域に根ざし、選ばれる病院、そして自慢できる病院にしていきたいですね。もしかしたら、いつか患者としてお世話になるかもしれないと思いながら、日々の業務に取り組んでいます。

このところの課題は、7年間の経過の中で建物が老朽化してきたことです。患者のトランス時に車椅子を頻繁にぶつける所やベッド移動でこすれてしまう壁など、対策に頭を痛めています。私どものような施設は、少し油断すると療養環境として、どうにもならない状況になってしまうのです。月に1回は、病棟内をパトロールしてそれらのチェックにあたっています。

さて、自分自身のことを振り返ってみましょう。事務長をとの話を受けた時には、私に

としては柄でもない役職なので、辞退させていただくつもりだったのですが、あとわずかで迎える定年を前に、阿久和病院（現在の湘南泉病院）を始めとして新中川病院、ほうゆう病院と開設に携わり、27年を無事過ごす事が出来た事に感謝の気持ちと少しは恩返しが出来るとの思いで挑戦することにしました。

入職当時は、社会保険等の手続き等を行ったりする総務課員としての仕事をしていたのですが、初めて目にする医療事務にとっても興味がわき、少しずつ手伝わせてもらっているうちに、すっかりはまってしまい、新中川病院への転勤の時は、医事課長を拝命、これが私の原点でした。この頃のレセプトは全て手書きの為、請求時期には夜9時、10時の残業は当たり前で、5月の連休やお正月はまったく関係なくの毎日だったことを、その当時苦勞を共にした仲間の顔を合わせて懐かしく思い出されます。

残された日々を微力ながら、ほうゆう病院の発展に寄与したいと願います。

第5回 市民向け医療・福祉講座 開催

～ テーマ「認知症とはどんな病気か？」～ 講師 小阪 憲司 先生

平成19年11月9日(金)14時からほうゆう病院会議室にて、第5回市民向け医療・福祉講座「認知症とはどんな病気か」を開催いたしました。出席者はご家族や施設の職員の方々、約90名の参加人数で会場が溢れる状況でした。

講師は、76年にレビー小体型認知症の症例を初めて国際学会に報告、発見者として知られるほうゆう病院 小阪院長で、とてもわかりやすく



ほうゆう病院長 小阪 院長



グスタフ・ストランデル氏

楽しい講義でしたとの声が多かったです。もう一人の講師 グスタフ・ストランデル氏の講義も流暢な日本語で聞きやすく、触れることの大切さ、特にタクティールケアについて話され、皆さんの関心が高まりました。

今後少しでも皆様のお役に立てるように取り組んでいきますので、ご支援お願い致します。

鵬友会3病院ナースキャップを廃止

—看護の心をしっかりと—

感染対策委員会(ICT)のサーベランスの結果を受けて10月1日から、湘南泉病院・新中川病院・ほうゆう病院の看護職がナースキャップをはずすことになりました。キャップをはずすことで危惧されることは、髪型がだらしなくなり、接遇の面でどうだろうかということ、二つめには、キャップをつけてはじめて精神的にきりりとして、仕事に向かうことができるといった点です。若い人たちから見ると、古くさい考え方とされるかもしれません。しかしながら、心構えの問題としてキャップに込められた“看護の心”を忘れないで欲しいと願うばかりです。



ほうゆう秋祭り 開催



平成19年9月26日(水)ほうゆう病院にて14時から「ほうゆう秋祭り」を開催いたしました。入院患者様、デイケア患者様、ご家族様、職員と約100名の参加で、大盛況でした。

